

建材試験 センター会報 8

1968

VOL. 4

N O. 8

- ・ 巻頭言／BAU-68 を見て 栗山 寛
- ・ I 試験料金
- ・ II 研究報告
建築用油性コーキング材の品質試験 山川 清栄
- ・ III 業務報告
受託状況
会合その他事項

ミュンヘンのBAU-68会場前に立に筆者

BAU-68 を見て

栗山 寛



本年2月末、西ドイツ・ミュンヘンにおける1968年建築展を見る機会を得た。この建築展は2年ごとに過去2回開催せられ、今回は3回目である。内容は大規模な建築材料展示会で、出品会社数600余（うち外国商社約120）に及び、大体欧州における建築材料の現状をうかがい知ることができた。会場は入場者が多くて活況を呈し、しかも一般市民の参観者の多かったことが印象的であった。

おもな部門は、鉄鋼、アルミニウム、石材・窯業製品、ガラス・プラスチック、木材・木質製品、保温材、建築設備その他で、20の会場に要領よく展示されていた。次代の建築材料としてのアルミニウム・プラスチックはそれぞれ建築の各部位への進出が意欲的に感ぜられたが、一方、欧州の伝統的建築材料である窯業製品・木製品などが、新しい感覚をもって展示されていた。また、保温材・設備類にも見るべきものが多かった。総じて展示の方法は単に材料の陣列にとどまらず、その使い方をモデルをもって示すやり方で、なかなか見ごたえがあった。多種類の建築材料であるが、そのいづれもが、わが国に存在する建材以外の目新しいものは、なにか一つないといっても言いすぎではないようである。このことは、他の2~3の国の常設建材展示場を見て廻ったが同様であった。ただその展示方法について学ぶべき点が多かったと思う。

戦後、わが国は戦争によるおくれをとりもどすために、企業経営者が、わが国にない建材を見つけると抜け目なく、いわゆる“技術導入”と称して持ち込んで来たため、世界中の建材がわが国で生産されているといえようか。もう、ぼつぼつわが国独自の建材が開発せられてしかるべきと思う。しかし、建材の種類が同じでも、国々によって気候風土が異なり、生活様式や国情も異なるから、その使用方法において相違していることは当然と受けとられた。そんなわけで、一つの建材がわが国にとけこむには相当の年月を必要とする。その一例に木毛セメント板がある。欧州でも既に用いられるているが、わが国でも既に40年の使用歴を経て、

わが国なりの用い方ができているといえる。

欧州の各都市の建物は大体主体が煉瓦による組積造で、わが国の木造と好対照である。地震がないことも組積造の永続する理由の一つであろう。さすが煉瓦については、建築展でも多くの出品があり、ホーロ煉瓦の種類が多いのに一驚した。カーテンウォールをホーロ煉瓦で積んで、表面に塗壁仕上している。わが国のコンクリートブロックの如きもので、欧州でコンクリートブロックがあまり発達しない理由がわかった。

また面白いことは、前記の建築展の一部に、古い建物の改造に関するコーナーが設けられていたことである。組積造の建物は解体に手間がかかるので、各ビルの構造体はそのままにして、内部だけを近代生活にマッチするように、間取の変更・内装の刷新・設備の更新を行なうことが、手っとり早く、かつ経済的であるからである。欧州の都市の古い建物がよく保存されているのも、このようなことが一つの理由であろう。泊ったホテルの外観は古ぼけているが、内部がモダン化されている例が多かったことから読みとられた。展示場では古い建物の主体部はなるべく残したままで、屋根・内壁・天井・床・窓・設備その他の改造方法と模型をもって、材料・工法の在り方を示している。この場合は形式・外観だけでなく、各室の居住性（熱・音・光などに対する性能）を考えていることは注意すべきことである。しかし、欧州の各都市においても、都市の再開発にせまられているらしく、市中においても古い煉瓦造建物を取壊して高層ビルを建築した例は随所に見られたし、部外に大規模の団地を建設中の例は、各主要都市で多く見受けられた。いずれも高層化の方向に向っているようである。ローマの如く、旧ローマ市は観光都市として古建築美をそのまま保存し、その郊外に近代的設備を誇る新ローマ市の建設のような思い切った施策は、さすがムッソリニの力によって実現したものと感心させられた。

<筆者：東北大学工学部建築科教授：工博>

研究報告 建築用油性コーキング材56銘柄の品質試験

1. ま え が き

建築用油性コーキング材は、昭和28年頃から一般に使用され始めた建築材料である。その使用箇所は主に目地部分とか、窓枠廻りのすきまなどに充填して、防水および気密などの機能を発揮せしめるもので、現在ではメーカーも約50社・年間生産量4,500~5,000 tに達し、一般に広く普及した建築材料の一つである。この油性コーキング材の試験を建材試験センターで最初に行なったのは昭和40年4月であるが、昭和43年2月までの3年間に、試験依頼件数は40件・56銘柄に及んでいる。その内訳は、一般用コーキング材29銘柄・夏用コーキング材13銘柄・冬用コーキング材14銘柄である。これら油性コーキング材の成分は種々であるが、建築用として、使用する側に立って考えられるときは、成分が何であっても品質が良ければよいわけであり、従ってJIS規格においても、成分についての規定は特に示していない。ここでは、JIS規格にもとづいて行なった品質試験(56銘柄)の結果をまとめてみた。

2. 試験内容

メーカーから提出された試料を、JIS A 5751「建築用油性コーキング材」に規定している、収縮率・保油性・スランプ・付着性・硬化率・きれつ、および耐アルカリ性の7項目についての試験を行なった。これらの試験の意義を簡単に述べると次のとおりである。

収縮率は、充填されたコーキング材が“やせ”を起さないこと。

保油性は、油が充填された箇所を汚したり、また油がぬけて変質などしないこと。

スランプは、充填されたものが“たれ”を起さないこと。

付着性は、充填箇所によく接着すること。

硬化率は、充填後長期間柔らかさを保ちつづけること、きれつは、充填されたコーキング表面の被膜に“きれつ”を起さないこと。

耐アルカリ性は、コーキング材がアルカリに侵されて品質が変わらないこと。等がこの試験の重要なポイントと思われる。

3. 試 料

試験に用いた試料は製造業者より直接に送付されたものを使用した。試料は主に容量3~4l缶に入れてあり、一般用・夏用および冬用に区分されている。油性コーキング材は製造者により外観や色などが異っているし、また定められた使用温度・範囲もまちまちである。

4. 試験方法

試験方法はJIS A 5751-1966(建築用油性コーキング材)に定められている試験方法に従って行なった。コーキング材の試験温度は、一般用では温度20°C・湿度60%、夏用は30°C、冬用は5°Cである。従って、一般用コーキング材の試験には恒温恒湿室を使用し、夏用・冬用コーキング材の試験には恒温恒湿槽(室内の大きさ縦45cm・横45cm・高さ50cm)を所定の温度に調節して使用した。なお試験器具は、JIS A 5751に従ったものであるが、耐アルカリ性試験のみ試験管外径17mm・長さ180mmのものを使用した。

5. 試験結果

試験結果を表1にまとめてみた。(次頁)

6. 考 察

(1) 56銘柄の建築用油性コーキング材の試験を行なった結果について考察してみると、次のようである。

一般用コーキング材29銘柄のうち、すべての試験項目に合格したものは21銘柄であり、各項目別の不合格数は、保油性のしん透幅では1銘柄・しん透枚数では1銘柄・スランプでは4銘柄・きれつでは2銘柄・耐アルカリ性では1銘柄となっている。収縮率・付着性は29銘柄すべてが合格している。また、夏用コーキング材13銘柄のうち、すべての試験項目に合格しているものは12銘柄で、不合格のものは硬化率の1銘柄のみであった。冬用コーキング材では14銘柄のうち、すべての試験項目に合格しているものは13銘柄で、不合格は、硬化率で1銘柄・きれつで1銘柄となっている。

(2) 次に、一般用・夏用・冬用コーキング材の試

表 1 コーキング材試験結果

項 目	収 縮 率 (%)	保 油 性		スランプ (mm)	付 着 性	硬 化 率 (%)	き れ つ	耐アルカリ性	
		しん透幅 (mm)	しん透枚 数(枚)						
JIS A 5751 規 格 値	7 以下	5 以下	3 以下	3 以下	合 格	30 以下	合 格	合 格	
一 般 用 コ ー キ ン グ	試料 No.1	4.1	※ 7.8	※ 4	1.2	O. K	20.2	※OUT	O. K
	2	4.4	1.3	2	1.1	O. K	22.4	O. K	O. K
	3	4.5	4.8	3	1.1	O. K	※32.2	※OUT	O. K
	4	2.2	1.3	2	2.9	O. K	14.1	O. K	O. K
	5	3.2	1.5	2	※ 3.2	O. K	26.2	O. K	O. K
	6	3.3	1.5	2	0.5	O. K	※31.5	O. K	O. K
	7	2.8	2.5	2	0.7	O. K	26.8	O. K	O. K
	8	3.6	2.0	1	0.7	O. K	6.8	O. K	O. K
	9	2.4	2.5	1	※ 3.5	O. K	20.6	O. K	O. K
	10	2.0	0.5	1	2.0	O. K	5.3	O. K	O. K
	11	2.8	0.8	1	1.3	O. K	13.7	O. K	O. K
	12	2.7	1.8	2	1.3	O. K	4.4	O. K	O. K
	13	3.1	1.3	1	1.7	O. K	9.0	O. K	O. K
	14	3.0	0.5	1	1.0	O. K	20.9	O. K	O. K
	15	3.5	1.1	2	2.0	O. K	14.2	O. K	O. K
	16	2.8	0.5	1	※三落下	O. K	12.4	O. K	O. K
	17	4.5	0.5	2	8.0	O. K	14.9	O. K	O. K
	18	2.8	2.0	3	1.8	O. K	18.7	O. K	O. K
	19	4.3	0.5	1	1.5	O. K	15.5	O. K	O. K
	20	3.9	0.5	1	0.8	O. K	11.2	O. K	O. K
	21	1.4	0.6	2	1.7	O. K	14.8	O. K	O. K
	22	3.6	1.0	2	1.7	O. K	15.0	O. K	O. K
	23	2.9	0.5	1	1.0	O. K	17.6	O. K	O. K
	24	3.0	1.0	3	3.0	O. K	20.0	O. K	O. K
	25	4.0	0.5	2	2.7	O. K	12.4	O. K	O. K
	26	1.0	2.0	3	2.8	O. K	14.0	O. K	O. K
	27	2.5	0.5	1	2.0	O. K	23.7	O. K	O. K
	28	1.0	0.5	1	2.0	O. K	17.2	O. K	O. K
	29	4.2	0.7	2	0.8	O. K	19.6	O. K	※OUT
	全 平均	3.1	1.5	1.8	1.9	O. K	17.1	O. K	O. K
夏 用 コ ー キ ン グ 材	試料 No.1	0.6	2.6	3	0.8	O. K	28.0	O. K	O. K
	2	4.0	1.1	1	0.8	O. K	19.3	O. K	O. K
	3	3.4	1.8	2	1.3	O. K	※47.8	O. K	O. K
	4	3.5	0.5	1	0.5	O. K	25.1	O. K	O. K
	5	3.9	0.5	2	1.0	O. K	27.8	O. K	O. K
	6	3.8	0.6	2	1.7	O. K	17.7	O. K	O. K
	7	2.8	1.8	3	2.0	O. K	21.1	O. K	O. K
	8	2.9	1.5	3	1.7	O. K	7.7	O. K	O. K
	9	2.3	0.5	1	1.5	O. K	15.5	O. K	O. K
	10	3.9	3.0	2	1.3	O. K	25.4	O. K	O. K
	11	1.1	2.0	1	1.3	O. K	12.5	O. K	O. K
	12	0.9	0.5	1	2.0	O. K	8.7	O. K	O. K
		全 平均	2.9	1.3	1.8	1.3	O. K	21.1	O. K
冬 用	試料 No.1	2.9	0.7	2	2.3	O. K	5.7	O. K	O. K
	2	3.3	1.0	1	1.0	O. K	19.4	O. K	O. K
	3	4.6	1.3	2	1.3	O. K	※34.5	※OUT	O. K
	4	4.3	0.5	1	1.2	O. K	16.2	O. K	O. K
	5	3.8	0.5	2	2.8	O. K	26.5	O. K	O. K
	6	1.7	0.5	1	2.5	O. K	6.8	O. K	O. K

冬用 コーキング材	7	1.5	0.5	1	1.7	O. K	12.1	O. K	O. K
	8	3.5	0.5	1	2.0	O. K	14.8	O. K	O. K
	9	1.9	1.0	1	2.2	O. K	22.9	O. K	O. K
	10	3.2	0.8	1	3.0	O. K	11.6	O. K	O. K
	11	2.0	0.8	1	2.7	O. K	14.9	O. K	O. K
	12	0.9	0.5	1	2.0	O. K	13.3	O. K	O. K
	13	4.4	1.0	1	1.0	O. K	26.9	O. K	O. K
	14	3.5	1.0	1	3.0	O. K	10.0	O. K	O. K
	全平均	3.0	0.8	1.2	2.1	O. K	16.8	O. K	O. K

(注) ※印は不合格

験結果の全平均・合格の平均、および不合格の平均を JIS 規格値と比較した結果を表 2 に掲げてみた。なお、建材試験センターで行なった建築用油性コーキング材の試験の成績は、一般用コーキング材が72.4%・夏用コーキング材は92.3%・冬用コーキング材は92.9%の合格率となり、全件数についてみると合格率は82.2%となる。

(3) JIS 規格値に対して試験の平均値は次のような傾向を示している。

収縮率は JIS 規格値：7%に対して3%以下、しん透幅およびしん透枚数も規格値：5mm・3枚に対して、1.5mm以下・1.8枚以下となっており、規格値に対して十分に安全な値を示している。スランプは規格値：3mm に対して合格値の平均は2.1mm以下であるが、不合格になる件数はスランプがもっとも多いようである。硬化率は規格値：30%に対して、21%以下になっており、不合格のものは32~48%の範囲で、スランプ試験につづいて不合格になるものが多いようである。

(4) これまで行ってきた試験の経験から、現行の JIS 試験方法を改正した方が良いと考えられるものには、次のものがある。

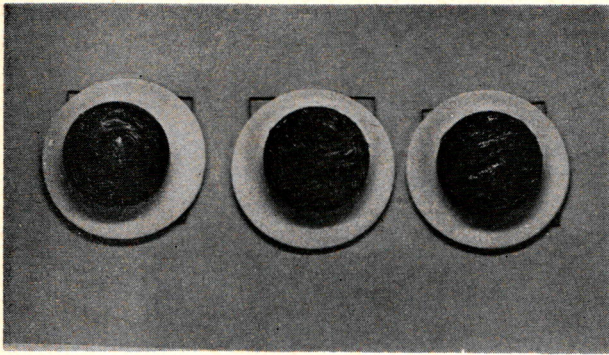
その第1は収縮率の試験方法である。これはガラス板上においた内径65mmのリング内にコーキング材を充填し、その上に水をビュレットで注水する。15日経過してから再び同じ方法で注水し、水の容積の差から収縮率



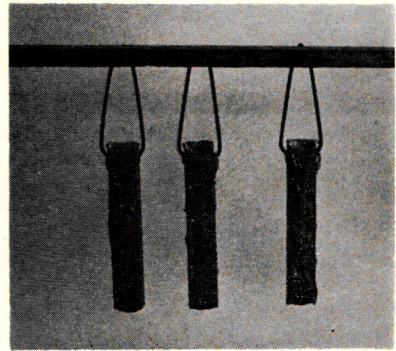
収縮率測定

表 2 JIS 規格値と試験結果の比較表

項 目	収縮率 (%)	保 油 性		スランプ (mm)	付着性	硬 化 率 (%)	きれい	耐アルカリ性	全試験項目に対する合格率 (%)
		しん透幅 (mm)	しん透枚数 (枚)						
JIS A 5751 規格値	7以下	5以下	3以下	3以下	合格	30以下	合格	合格	—
一 般 用 コーキング材	全平均	3.1	1.5	1.8	1.9	O. K	17.1	O. K	72.4
	合格の平均	3.1	1.2	1.7	1.6	O. K	16.0	O. K	
	不合格の平均	—	7.8	4.0	4.9	—	31.9	OUT	
夏 用 コーキング材	全平均	2.9	1.3	1.8	1.3	O. K	21.1	O. K	92.3
	合格の平均	2.9	1.3	1.8	1.3	O. K	18.8	O. K	
	不合格の平均	—	—	—	—	—	47.8	—	
冬 用 コーキング材	全平均	3.0	0.8	1.2	2.1	O. K	16.8	O. K	92.9
	合格の平均	3.0	0.8	1.2	2.1	O. K	15.5	O. K	
	不合格の平均	—	—	—	—	—	34.5	OUT	
3 銘 柄 コーキング材	全平均	3.0	1.2	1.6	1.8	O. K	18.3	O. K	82.2
	合格の平均	3.0	1.1	1.6	1.7	O. K	16.8	O. K	
	不合格の平均	—	7.8	4.0	4.9	—	38.1	OUT	
試験項目別 合格率 (%)	一 般 用	100	96.6	96.6	86.2	100	93.1	93.1	96.6
	夏 用	100	100	100	100	100	92.3	100	100
	冬 用	100	100	100	100	100	100	92.9	100



保油性試験



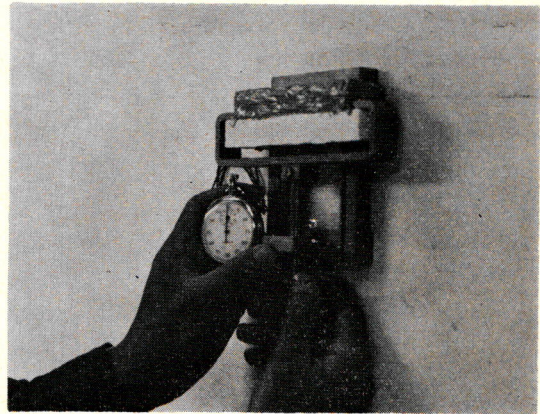
スランプ試験

を求める方法である。しかしコーキング材の収縮は実際に建物に使用される場合には、その被着物は、コンクリート・鉄・モルタル・木材などであるから、ガラス板の代りに、これらの材料を用い、コーキング材を充填し、その“やせ”を測定する方法がより現実に即したり、かつ適切ではないかと考える。

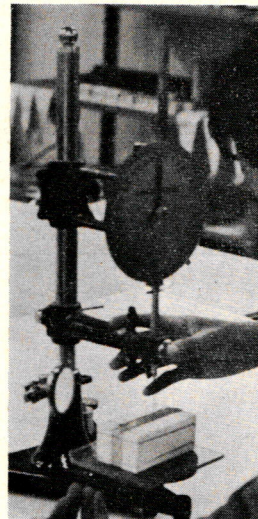
第2は付着性の試験方法である。これは、石こうモルタルの角棒(18×18×130mm)と金属製充填台との目地(幅15mm)部分にコーキング材を充填して、15日後、表皮のできているものはこれを薄く切り、所要時間20秒で目地幅30mmまで引張り、コーキング材が石こう角棒面に対して切れないものを合格としている。しかし表2に示すように、全種類とも不合格はない。石こう角棒と金属製充填台との目地以外にも、現実で使用されている状態を考へて、木材・鉄・モルタルなどの目地をつくり、引張り目地幅も30mmではなく、50mm位だと、付着性の良否の制定ができるようになるかとも考えられる。また、この場合、目地における試料のくぼみ深さも規定してもよいのではないかと思う。

第3は硬化率の試験である。これは幅15mm・長さ95mm・深さ40mmの目地部分に試料を充填し、24時間後、針入度計で重さ12.5gの針を5秒間針入させる。次に14日後、同じ方法を行ない、その針入度の差をもって硬化率を計算することになっている。問題は針入度計にあり、かなり試験を経験した者が行なっても、試験の値がバラツク傾向にある。原因は、落下ボタンの押し方・針の形・その他いろいろのファクターが考えられる。従って、もう少し試験誤差の少ない方法について検討する必要がある。

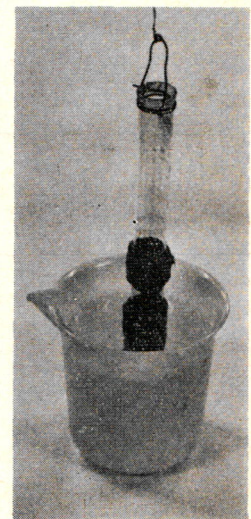
第4は試験期間についてである。油性コーキング材は建物に使用し、長い間におたつてその効力を発揮させる材料である。しかしJIS試験では、15日間の試験期間でその品質を決定するとしているので、少し無理があるようである。ゆえにJIS試験項目のすべてに15日間の代りに、ウェザーメーターを300時間程度掛け、



付着性試験



硬化率測定



耐アルカリ浸漬中

それから各試験を実施するのも一方法であろう。もちろん、この場合には、規格値は変わってくる。なお、現在の試験項目に更に、耐候性の試験項目を加えることも必要ではないかと考えられる。

<まとめ：山川清栄一 当センター中央試験所勤務>

試験料金 ⑨

(1) 陶磁器タイル

JIS A 5209-1967「陶磁器質タイル」にもとづく規格試験を一式として行うものである。

試験項目	主な項目の試験料金概算
(1) 寸法測定	
(2) 厚さ測定	
(3) そり測定	
(4) ばち測定	
(5) 吸水試験	
(6) ひびわれ試験(オートクレープ)……	約 9,000円※
(7) 摩耗試験……	約 6,000円
(8) 曲げ試験……	約 3,000円
(9) 台紙のはく離接着試験	
(10) 凍結融解試験……	約25,000円※
試験料金	¥47,000円(1種類全項目の場合)

※印の款目については、2種類以上を同時に行うことができる場合は割引する。

(2) 内装用プラスチック化粧ボード類

JIS A 5703「内装用プラスチック化粧ボード類」にもとづく規格試験で、一式として行うものである。

試験項目	
(1) そりもどしやすさ	
(2) 曲げ荷重	
(3) 衝撃試験	
(4) 乾湿くりかえし変形	
(5) 耐熱性	
(6) 耐薬品性(耐酸・耐アルカリ・耐溶剤・耐汚染性)	
(7) 引かき硬度	
(8) 難燃性	
試験料金	¥65,000(1種類につき)

(3) 建築工事中用シート

JIS A 8952「建築工事中用シート」にもとづく規格試験を一式行うものとして行うものである。

試験項目	
(1) 引張りおよび伸び	
(2) はとめ強さ	
(3) 防炎性	
試験料金	¥15,000円(1種類につき)
ただし、はとめ強さのみを行った場合は1種につき、(6枚1組)、¥3,600円である。	

(4) 塩水噴霧試験

JIS Z 2371「塩水噴霧試験方法」による。試料数は1枚~20枚まで。同一条件で96時間暴露した場合、試験料金 ¥20,000

業務報告

1. 43年6月度受託状況

(1) 受託試験

(イ) 6月度の工事用材料を除いた受託件数は49件(依頼試験第1287号~1336号)であった。その内訳を表1の依頼試験受託状況に示す。なお、成績書の発行は43件(試験成績書第1106号~1148号)であった。

(ロ) 6月度の工事用材料の受託件数は総数202件で、その詳細を表2に示す。

表 2

試験内容	受付場所		合計
	中央試験所	東部 (銀座事務所)	
コンクリートシリンダー圧縮試験	68	39	107
鋼材の引張、曲げ試験	48	44	92
骨材試験	0	0	0
その他	3	0	3
合計	119	83	202

(2) 調査研究、技術相談

6月度は3件であった。

2. 工業標準原案作成関係

(1) 継続中のもの

○木毛セメント板(JIS A 5404)改正第4回幹事会6月4日 改正原案にもとづく試験結果の報告(寸法・重量・かさ比重および曲げ破壊荷重・吸音特性)と検討。原案の全面的再審議を行なった。

○構造用軽量コンクリート骨材(JIS A 5002)第5回幹事会 6月13日 改正原案にもとづく製品の試験結果報告と検討を行なった。

○建築用パネル類の規格のあり方第13回委員会 6月21日 アンケート追加調査分の検討と答申原案の最終的審議を行なった。

(2) 新規受託

○建築材料の摩耗試験方法(落砂法)

第1回本委員会 6月13日

委員会構成25氏・委員長に東京大学の西教授選出、5月27日準備小委員会における原案作成の構想を提示して検討。適用範囲・試験体・試験装置・試験方法および結果の表示等の大要を一応決定、実験実施の必要を認知した。なお関係資料の収集をし次回にて研究することが決まった。

○キャストダブル気泡コンクリートのかさ比重・含水および吸水量測定方法 第1回本委員会 6月18日

委員会構成17氏、委員長に工学院大学の狩野教授を選出。準備小委員会(第1回5月21日・第2回6月18日)における原案作成の構想、ならびに原案作成上主

表 1 依頼試験受託状況

材 料 区 分	材 料 一 般 名 称	試 験 内 容 の 概 要	件 数
木材・繊維質材料	繊維壁材	難燃性試験 引かつき硬度	3
石材・人造石	岩綿	熱伝導率, 繊維の太さ, かさ比重, 粒子含有量	1
モルタル・コンクリート	軽量コンクリート, 無収縮材料, 碎石, 分散剤	圧縮, 含水率, 耐火試験, 比重, 吸水, 粒度, 安定性, すりへり, 洗い試験, 曲げ強度	8
セメント・コンクリート製品	セメント, けい酸カルシウム, セメントパラライト板, 波形石綿スレート	セメント物理試験 (JIS A 5201) 透水, 衝撃, 曲げ試験, 不燃性試験, 吸水, 耐火試験	3
左官材料	せっこうプラスター, 吹付結露防止剤, せっこうボード	焼せっこう量, 凝結時間, 粉末度, 曲げ強さ, 硬度, きれつ, 保水性, 熱伝導率 吸水, 吸湿, 遮音, 難燃性試験	4
鋼 材	軽量形鋼溶接片	溶接箇所剪断試験	1
家具・建具	工具キャネット, 書庫アルミサッシ耐火庫	引出繰返し試験, 荷重試験, 塗膜試験, 防錆試験, 耐風水圧, (強さ, 水気密, 密) 耐火試験	16
プラスチック・接着材	バックシン, 保温材, ウレタン, 塩化ビニル製品	保油性, 油分流出, 吸水, 圧縮, 燃焼性, 熱伝導率, 耐燃性, 透水	4
床 材 料	塩化ビニルタイル	残留へこみ, そり, 耐薬品性, すべり, 直角度, 加熱減量, 長さ変化量, たわみ	2
シーリング材料	油性コーキング, ガラスパテ	収縮, 保油性, スランプ, 付着性, 硬化率, きれつ, 耐アルカリ作業性	2
塗 料	着色亜鉛板	塩水噴霧, エリクセン, 腰折れ, 曲げ	1
皮膜防水用材料	アスファルトルーフィング	アスファルト含有量, 引張強度, 伸び, 水平引張破断時の伸び	1
紙・布カーテン・敷物	養生シート	はとめ強さ	1
パ ネ ル	軽量鉄骨系, カーテンウォール	耐風水圧, 熱貫流率	2

合 計 49

要問題事項の検討を42年度原案答申した「同品種の強さ試験方法」と照合しつつ審議を行ない、小委員会に素案作成方付託した。なお試験実施の大綱が決まった。

○ドア用開閉金物の開閉試験方法

第1回本委員会 6月24日

委員会構成23氏・委員長に千葉大学の波多野教授を選出。適用範囲・試験設備・試験方法および記録方法について審議を行なった。なお関係資料の収集等の準備事項等が決まった。

○天井仕上材接着材の接着力試験方法

第1回本委員会 6月26日

委員会構成28氏・委員長に東京大学の西教授を選出。適用範囲・試験体・試験装置・試験方法, 記録方法および問題となる事項を議題にして審議を行なった。なお小委員会の編成が決まった。

(3) 建築生産開発調査研究会

第25回委員会 6月10日

建材の需要量を決定する要因の分類・建材統計調査追加資料内容につき研究を行なった。

(4) 業務会議

2回開催

(5) その他

三木会 (関係新聞社との懇談会) 6月20日

事務局だより

当建材試験センターの三大業務の一つである調査研究とか技術相談は、日を追って扱件数が増加している。従来は、持込まれた内容によってそれぞれの分野のエキスパートを選んで検討してもらい(満足すべき結論が生まれたが、その大部分サービスとして処理された。今までの経験からすれば、単なるサービスの処理では不徹底であり、何かと不都合が生じがちであるから、この際、この業務にかかわる組織を編成、技術相談室を設け、推進することとした。技術相談室には、専任の職員を当て、軽重を問わずどんなご相談にも応じ、適切な処置をとるようになっている。相談室開設以来とくにJISの普及浸透で、この方面の相談が増えているが、当センターとしてはJIS関係の処理が最もふさわしい事項と考えている。もちろんこれらの処理に必要な手数料をケースバイケースで頂戴するわけであるが、すべて実費主義を建前としている。

なお先般の理事会評議員会で決議された43年度の事業計画のうちの講習会研修会の開催企画は、目下具体的に着々進めており、一般から充分喜んで貰える催し事を用意している。(事務局長 金子新宗)

建材試験センター会報 Vol.4 No.8 (8月号)
本 部 東京都中央区銀座東6の1通商産業省銀座東分室内 電話(541)4721交換・(542)2744 直通

財団法人 建材試験センター
中央試験所 埼玉県草加市稲荷町字堤外川上1804番地
電話 (0489) 2-0051